

附

錄

附 錄

○戰時卜事業ノ消長

明治三十七八年ノ戰役ハ有史以來帝國未曾有ノ國難ニシテ舉國一致存亡ヲ賭シテ大局ノ勝利ヲ期成シタルト共ニ開戰以來上下相呼應シテ義勇奉公ノ大義ト國本培養ノ擴進トヲ鼓吹シ以テ士氣ノ激勵及出征軍人ノ援護ニ努力シ教育ハ隆昌及産業ノ増進ヲ勸奨シ經濟ノ整善ヲ企圖シ日夜之カ實施厲行ニ盡瘁シタルヲ以テ其効果ハ見ルヘキモノ少カラス左レハ此ノ統計書ノ各篇ニ表章スル所ノ事物ニ就キテハ軍國ニ於ケル狀況ヲ考察シテ其消長ヲ知ラサルヘカラサルモノテリ然リト雖モ如上ノ事項ハ一々之ヲ枚舉スルニ遑アラサルヲ以テ最モ喫緊ト認ムル事項ノ梗概ヲ本篇ノ附録トシ左ニ列叙スルコトトシタリ尙戰時産業督勵委員部施設ノ概要及戰時教育ニ關スル事項ノ説明ノ如キハ明治三十七年ノ統計書及本年ノ統計書中各其篇ノ附録或ハ備考ニ記述シタルヲ以テ彼此對查攻究セハ庶幾クハ參考ノ資トスルニ足ルモノアラシカ

○紀念事業ノ種類、計畫、實行ノ梗概

從來造林經營ノ獎勵ニ努メタル結果年ヲ逐フテ民林施業ノ増進ヲ見ルモ尙一般林業思想幼稚ニシテ造林ノ方法宜シキヲ得タルモノ少ナク斯業ノ模範ヲ示スハ極メテ必要ノ事ニ屬セリ殊ニ時局ニ際シ紀念事業トシテ縣ニ於テ模範林ヲ設ケ造林實施ノ模範及効果ヲ熟知セシムルト共ニ一ハ本縣將來ノ財源ニ供センコトヲ期シ明治三十七年之カ計畫ヲ立テ其事業費ハ特別會計トシ尙土地購入費ハ縣立學校基本財産ヨリ繰入レ之ニ充テ該繰入金ハ林地ヨリ生スル收入ヲ以テ一定ノ期間内利子ニ相當スル金額ヲ加ヘテ漸次償還戻入スルモノトシ造林費及管理費ノ外ハ一般縣費ニ資ラサルノ方法トセリ其事業ノ計畫左ノ如シ

模 範 林 計 畫

- 一 模範林ハ國有林ヲ買入レ左ノ各號ニ依リ之ヲ經營ス
- (一) 現在立木ヲ賣却シテ國有林買入代金ノ回收ニ充ツルコト
- (二) 立木ヲ賣却シタルトキハ其跡地ニ造林ヲ行フトコ

(三) 林地全面積ヲ凡百貳拾町歩トス其事業期間ハ左ノ如シ

イ 現在立木ノ賣却ハ明治三十八年度ヨリ明治五十七年度ニ至ル二十箇年トス

ロ 造林ハ明治三十九年度ヨリ明治五十八年度ニ至ル二十箇年トス

(四) 毎年ノ施業面積ハ凡六町歩トス

但事業上ノ便宜ニ依リ一箇年ノ繰上又ハ繰延ヲ爲スコトアルヘシ

二 第一回造林以後ノ施業方法ハ左ノ各號ニ依ル

(一) 樹種ハ杉、扁柏トス

(二) 造林ハ一箇年凡六町步宛二十箇年間連續施行ス

(三) 伐期ハ主伐ヲ百年トシ間伐ハ二十年目毎ニ之ヲ行フ

三 第一回間伐以後ノ收入見込額ハ左ノ如シ

第一回間伐以後ノ收入(二十年生) 毎年百九拾四圓九拾八錢五厘宛二十箇年間

第二回間伐收入(四十年生) 毎年八百拾八圓九拾參錢七厘宛二十箇年間

第三回間伐收入(六十年生) 毎年貳千貳百九拾五圓貳拾五錢貳厘宛二十箇年間

第四回間伐收入(八十年生) 毎年壹萬壹千四百拾貳圓宛二十箇年間

主伐收入(百年生) 毎年貳萬貳千貳百八拾四圓宛二十箇年間

四 國有林買入費ハ縣立學校基本財産ヨリ繰入之ニ充テ追テ利子ニ相當スル金額ヲ付シ繰戻スルモノトス

五 造林費及管理費ハ國有林買入代金ノ回收ヲ終ル迄ハ一般縣費ヨリ繰入支出スルモノトス

六 林地ノ保護取締ヲ爲メ監守人ヲ置キ其報酬トシテ雜産物ノ無料採收ヲ許シ若ハ相當手當ヲ給スルコトアルヘシ

七 事業上ノ便宜ニ依リ模範林ノ一部ヲ師範學校、中學校又ハ農學校ノ樹栽地ニ使用セシムルコトアルヘシ

但植栽ヨリ生スル收益ハ模範林ノ收入トス

右計畫ニ基キ明治三十八年七月中足羽郡一乘谷村及東鄉村所在字東郷國有林實測面積百貳拾貳町七反參畝拾壹步ヲ地上立木共代金壹萬七千貳百九拾八圓九拾五錢壹厘ヲ以テ買受ケ既ニ第一期ニ屬スル林地六町步ノ立木ヲ伐採シ其跡地ヘ明治三十九年秋季及明治四十年春季ニ於テ杉、扁柏約二萬八百本ヲ植栽スルノ順序ナリトス

又縣下各郡市ニ於テ戰時紀念ノ目的ヲ以テ施設シタル事業ハ、教育及農事、水産、工業、林業等ノ諸種ニシテ其重ナルモノハ學校林、町村林、大字林及民有林ノ經營、産業組合ノ設置、模範農園、養魚場ノ新設、水利組合ニ於ケル田圃灌漑事業

等トス其梗概ヲ掲クレハ左ノ如シ
一 造林

郡市町村及學校等基本財産ノ増殖ヲ計ルノ一方法トシテ造林事業ヲ經營スルハ頗ル適當ナリトシ時局ニ方リ戰役紀念トシ或ハ戰時ヲ好機トシテ之ヲ利用シ明治三十七、八年ニ於テ施設計畫ヲ爲セルモノ尠カラス其造林面積ハ學校林、町村林、大字林、民有林ヲ通シテ貳千四百四町貳反壹畝八步ニ上リ而シテ植樹ヲ實行シタル反別九百四拾壹町參反七畝六步ニシテ植栽樹數百六十四萬八千三百九十五本ニ達セリ之ヲ各郡ニ細別スレハ左ノ如シ

郡市名	學 校 林		町 村 林		民 有 林		計			
	計畫反別	植樹反別	計畫反別	植樹反別	計畫反別	植樹反別	計畫反別	植樹反別		
足羽郡	三〇〇〇〇〇	六八二五	杉松	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	三〇〇〇〇〇	六八二五	杉松
吉田郡	二〇〇〇〇	四〇〇〇	杉	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇〇	四〇〇〇	杉
坂井郡	一七〇四二五	七二五二九	杉松	一三〇九四	一〇〇〇五〇〇〇	二六二〇七二二	九一八〇	一〇一七五四一五	二六七三三一一	杉松
大野郡	七七三三三六	一八九七〇〇	杉扁柏桐松	一一三九四六三	二六五〇九〇〇	二六五〇九〇〇	八二二二七〇	七六三三三六	一八九七〇〇	杉松扁柏桐
今立郡	二二〇三三〇六	一一五七二九	杉	三三三九六	二六五〇九〇〇	二六五〇九〇〇	二二二二七〇	二二八八四一〇六	二七六六二九	杉扁柏
丹生郡	四七〇〇〇〇	四六七〇〇	杉	三三三九六	二六五〇九〇〇	二六五〇九〇〇	二二二二七〇	二二八九九五〇〇	二四〇六七〇〇	杉
南條郡	三三三三二九	三三三二九	杉扁柏	七九四〇〇	二二二二七〇	二二二二七〇	二二二二七〇	三三三三二九	三三三三二九	杉扁柏
敦賀郡	四一五二七	四一五二七	杉扁柏桐	一三九四九	二二二二七〇	二二二二七〇	二二二二七〇	四一五二七	四一五二七	杉扁柏
三方郡	二四八三四二八	二〇二二二六	杉扁柏	七三〇八七	二二二二七〇	二二二二七〇	二二二二七〇	二四八三四二八	六三三二〇六	杉扁柏
遠敷郡	二〇六七七一〇	二二六〇〇三	杉扁柏	三三〇七〇	二二二二七〇	二二二二七〇	二二二二七〇	二七八〇二八	二二二二二五	杉扁柏
大飯郡	二二〇三一九	二二〇三一九	杉扁柏	二九四〇一	二二二二七〇	二二二二七〇	二二二二七〇	二二〇三一九	二二〇三一九	杉扁柏
總計	五〇三八三〇〇〇	一四三三三〇七	杉松扁柏桐	三三三三三〇〇	二二二二二〇〇	二二二二二〇〇	二二二二二〇〇	五〇三八三〇〇〇	一四三三三〇七	杉松扁柏桐

本表×印ハ大字林ナリ

二 植 樹

前項造林事業ノ外桐、桑、杞柳、其他菓樹ヲ植栽シタルモノ亦尠カラス其一ニテ舉クレハ遠敷郡ニ於テハ郡農會ハ郡費ヲ以テ若干ノ經費ヲ補助シ同會ノ事業トシテ郡内七千五百戸ニ對シ毎戸ニ紀念菓樹トシテ柿、梅、梨子一本宛ヲ植付シメ若シ枯死スルモノアレハ必ス補植セシメ又三方郡耳村ノ各大字ニ於テハ柿二千本天津水蜜桃五百本、梨子四百本、杞柳五万本ヲ植栽シタルカ如キ其重ナルモノトス

三 産業組合

戰時中國民ノ公憤ハ發奮スルノ動機トナリ其活動上ノ必要ニ應ジ産業組合ヲ設ケ何レモ喫緊ナル供給ヲ目的トシテ經營セリ其種類左ノ如シ

産業組合

郡市名	信 用 組 合		販 賣 組 合		購 買 組 合		合 計	
	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數
福井市	1	1	1	73	1	1	3	73
足羽郡	3	96	1	774,500	1	96	5	1,140,000
今立郡	1	1	1	285,000	1	1	3	285,000
丹生郡	1	19	1	600,000	1	19	3	600,000
敦賀郡	1	1	1	1,101,100	1	1	3	1,101,100
三方郡	2	20	1	860,000	1	20	4	860,000
遠敷郡	1	1	1	1,190,000	1	1	3	1,190,000
總 計	6	125	2	2,826,600	4	121	10	5,278,600

四 模範農園

坂井郡三國町森田三郎右衛門ハ戰役紀念ノ爲メ一巳ノ事業トシテ明治三十八年八月三國町及新保村地籍ニ於テ面積五町壹反拾歩ノ地區ヲ定メテ模範農園ヲ設ケ菓樹、穀類、蔬菜等ヲ植栽シ一般畑作當業者ニ之ヲ示シ斯業ノ改良發達ニ資益

スル所アラシメンコトヲ圖ルノ目的ヲ以テ經營セリ即チ同年秋季ニ於テ蘿蔔壹町步蕪菁貳反步蔬菜(二十種)壹反步小麥壹町步豌豆五畝步蠶豆參畝步及梨子六百本桃百本林檎二百本柑橘三十五本枳殼三千五百本ヲ栽培セリ

五 養魚場

坂井郡加斗村平山熊谷次三郎外三名ハ戰時紀念トシテ明治三十七年七月合同資本金五千參百拾四圓五拾錢ヲ以テ同村ニ養魚場ヲ設ケ北陸養魚場ト稱シ其設備ハ養魚池十箇所面積七千三百十五坪附屬菓樹園一箇所面積四千五百坪建物一棟ニシテ同年中放養セシ魚類ハ大和親鯉十尾、地方親鯉四十尾、稚鯉十萬尾、大和鯉產卵二百八十萬粒、地方鯉產卵七百萬粒ニシテ同三十八年中大和親鯉三十尾、鱧百貫目(凡八萬尾)源五郎鮎(親魚)二十五尾、親耕鯉二十尾、親金魚百二十尾ヲ放養セリ而シテ植栽セシ果樹ハ苹果三百五十本、巴丹杏五十本、桃三十本ナリ

六 田圃灌溉事業

坂井郡木部村木部新保地籍内水田八拾町餘歩ハ連年用水缺乏ノ爲メ早害ヲ被リ損害ヲ受クルコト少カラズ依テ村民相謀リ戰時紀念事業トシテ明治三十八年四月五日木部新保普通水利組合ヲ創立シ同月工費金四千圓ヲ以テ新式蒸氣唧筒(馬力十二吸水力一時間二千七百石)ヲ購入シ直ニ据付工事ニ着手シ同年九月二十五日ヲ以テ竣工セリ而シテ其成績頗ル良好ニシテ比年ノ早害ヲ免ル、ニ至レリ

○時局ニ於ケル後援事業

一時局ト後援事業ノ概觀

出征軍人並其家族遺族ニ對スル後援
出征軍人ノ家族遺族ヲ後援スルハ國民當然ノ義務ニシテ而カモ其一區一部落ニ在リテハ隣保相扶ノ情誼ヲ竭シ以テ出征軍人ヲシテ後顧ノ憂ナカラシメンコトヲ期圖スルヲ以テ急務トセリ左レハ福井會尙武會及各郡市町村ノ太字ニ於ケル保護團等ハ奮テ其事業ノ伸展ヲ計リタリ其概要ヲ舉ケレハ左ノ如シ

(一) 出征軍人ノ家族遺族ノ奮勵及一般人心ノ奮起

出征軍人家族一般ニ其主動者タル父兄若ハ子弟カ召集ニ應セシヲ以テ家業ニ支障ヲ生シ之ヲ繼續スルハ頗ル至難ナルニ拘ラス堅忍持久能ク老幼相携ヘテ出征者ノ心ヲ以テ心トシ貧困ノ身ヲ以テ荷モ他ノ救助或ハ扶助ヲ受クルヲ屑シトセズ益々業務ニ奮勵シ以テ家計ヲ維持シ敢テ應召前ニ異ラサランコトヲ欲シ尙且ツ軍人慰藉ノ事業ニ奮勵シ又一般人心ノ傾嚮ニ在テモ生産的成業ヲ獎勵シ其模範ヲシテ克ク人心ニ銘シ美譚トシテ嘆賞スルモノ少カラスト雖モ茲ニハ之

ヲ省略ス

(二)隣保相扶ノ情誼團體救護ノ施設ニ關スル一般ノ概勢並事績

(イ)福井縣尙武會ハ素ト尙武ノ思想ヲ振起發展セシムルヲ以テ目的トシ會員ヲ全縣下ニ有シ其本部ヲ縣廳所在地ニ支部ヲ各郡役所々在地ニ置キ而シテ本部ニ在リテハ阪本福井縣知事自ラ會長ノ任ニ當リ事務官以下屬僚ニ副會長幹事及書記ヲ囑託シ支會ニ在リテハ郡市長ニ支會長ヲ郡市書記町村長以下ノ職員吏員等ニ支會幹事理事長理事及評議員ヲ囑託シテ徵兵ノ獎勵軍人ノ待遇戰病死者ノ吊祭家族ノ救護傷痍者ノ扶助等ノ事業ヲ經營セシカ明治三十六年歲末ニ至リ東洋ノ風雲愈々急ニシテ露國トノ國交日ニ悲ナルヲ以テ明治三十七年一月役員會ヲ開キニ朝開戰ノ場合ニ方リテハ援護の諸種ノ事業ヲ大ニ伸展擴張シ以テ第一着ニ軍人家族ノ貧困ナル者ヲ救護シ出征者ヲシテ後顧ノ憂勿カラシメンコトヲ決議シ而シテ 宣戰ノ大詔煥發セララルヤ先ツ救護金支給内則ニ依リ救助ノ實施ヲ開始シタリ此ノ事業タル最モ能ク出征者ノ士氣ヲ激勵シ家族ニ慰安ヲ與ヘタル効果著シク其有形無形ニ於テ多大ナルモノアルヲ認メタリ其他軍隊軍人出征凱旋ノ送迎犒軍慰問吊意等ニ熱誠ヲ濺キ以テ國家ノ干城トシテ曠古無前ノ國難ニ從フ所ノ勞苦ニ副ハンコトヲ期シタリ其ノ救護ヲ爲シタル延戸數ハ明治三十七年二月五日動員下令ノ當日ヨリ明治三十九年一月迄三萬二千八百一十一戸救護金額ハ貳萬五千七百貳拾六圓貳拾七錢ナリ

(ロ)軍人家族保護團ハ初メ各郡市長ノ意見ヲ聞キ軍人家族保護團規約標準ヲ定メ之ニ據リテ以テ各小字若クハ各大字ニ設ケシムルコトヲ督勵シ下士兵卒家族救護令ニ依リ救助及福井縣尙武會ノ救護ト相俟テ其實効ヲ舉ケシコトヲ期シ専ラカラ軍人家族ノ保護ニ竭シ適切ナル扶助方法ヲ探レリ其重ナル援護ノ事業二三ヲ記スレハ耕作又ハ收穫ノ時季等出征軍人家族ノ最モ繁忙ノ時ヲ測リ日割ヲ以テ團員交互ニ勞力ノ補助ヲナシ或ハ出稼者ノ老幼者ヲ看護シ又ハ家族生計上ノ必要ニ應シテ現金物品ヲ給與シ以テ其職業ヲ獎勵シ且ツ町村長ハ勿論郡市長ハ警察署長及駐在所巡查等ト氣脈ヲ通シ其狀況ヲ視察シテ扶助ノ普及ニ就キ監督ノ任ニ當レリ其救護ヲナシタル延戸數ハ明治三十七年七月救護ノ當初ヨリ明治三十八年十二月末日迄ニ二萬五千八百七十五戸救護金額物品勞力ノ價格等ヲ計上スレハ金九萬六千參拾六圓六拾壹錢壹厘ナリ而シテ各郡市保護團ノ中ニ就キ殊ニ成績ノ顯著ナリシハ坂井郡高棕村保護團救護戸數二十七戸人員百八十七人救護金貳千四百九拾參圓參拾貳錢勞力扶助九百四十八人丹生郡吉野村保護團救護戸數十一戸五十五人救護金額金六拾參圓米六十一石勞力八十五人等ナリトス

○時局ト生業扶助

一 收容授産 時局援護ノ爲メ特設シタルモノ個人
又ハ會社ノ商工場ニ收容シタルモノ 居所授産ノ狀況並其ノ施設經營ニ關スル事實

(イ) 敦賀郡敦賀町ニ於テハ時局ニ方リ藁蒲團、背負、袋、敷布、綿入病衣等軍需品ノ調製ニ軍人ノ家族ヲ使用スルコトトシ初メ該町役場樓上ヲ工場ニ充テ之ニ從事セシメシカ明治三十八年ニ至リ愛國婦人會福井支部敦賀郡幹事部及同地在住ノ將校婦人會協同シテ該事業ヲ引受ケ工場ハ篤志者ヨリ無料ニテ民家ヲ借受ケ之ニ充テ會員自ラ補助監督シテ敦賀町及隣接松原村ノ軍人家族ニ前記諸品ノ裁縫及洗濯等ヲ爲サシメ其ノ賃金ハ即日支給スルコトナシタルヲ以テ開設以來之ニ從事スル家族漸次増加シ遂ニ四十餘名トナリ而シテ其一人ノ一日ニ得ル賃金ハ拾五錢乃至四拾錢ノ間ニシテ該賃金ノ幾分ヲ郵便貯金ト爲スモノアルニ至レリ然レトモ此事業ハ聯隊需用ノ如何ニ由リ間斷ナク之カ施業ヲ爲ス能ハサルヲ以テ帝國軍人援護會ニ懇請シテ資金參百圓ノ補助ヲ得明治三十八年末ヨリ敦賀後援授産場ト改稱シ「タラ」製造ヲ爲シツ、アリシカ近來本品ノ製造ハ其ノ收支相償ハサル爲メ更ニ「バレンレース」ノ教師ヲ聘シテ該品製作ノ事業ヲ創始シ軍人ノ家族遺族ノ生業扶助トシテ授業ヲ經營シ併テ一般婦女子ニモ普及セシムヘキ目的ニテ目下着着計畫中ニ係レリ

(ロ) 足羽郡社村軍人家遺族救護團ニ於テハ同村加茂河原地籍通稱笏谷切石組合事務所ニ交渉シ勞働ニ堪ヘ得ル軍人家族ニ石工ヲ傳習セシムルコトトシ十五歳以上五十歳以下ノ男子二十五名ヲシテ之ニ從事セシメ救護團ノ役員ノ力監督ノ任ニ當リ益々之ヲ獎勵シ彼等ヲシテ奮テ通勤セシムルニ至レリ然ルニ其ノ賃金ハ通常職工一日金四拾五錢以上ヲ得ラルルニ拘ハラズ漸ク一日金拾五錢位ヲ得ルニ過キス左レハ器具ノ損料等ヲ引去ルトキハ實収賃錢ハ僅ニ平均拾壹錢ニシテ到底一戸ノ口糊ヲ支フル能サルヲ以テ救護團ヨリ一日一人ニ付金拾錢宛ヲ補助シ且ツ帝國軍人後援會ヨリ金五拾圓ノ助力ヲ受ケ作業器具ヲ購入シテ大ニ修業ノ扶掖ニ努力發奮セシメ技倆大ニ上達シテ殆ント一人前トナル者多ク漸ク獨立ノ生計ヲ立テ得ルニ至レリ

(ハ) 足羽郡上文殊村軍人家遺族救護團ニ於テハ同村特有物産蘭編笠製作ノ業務ヲ利用シ軍人家族ノ貧困者ニ其製作ヲ傳習セシメントシ老幼者ハ素品撰ニ從事セシメ壯年者ハ男女ノ二部ニ別チテ編笠傳習ニ從事セシムル事トシ遂ニ四十七名ノ就業者ヲ得獎勵指導ニ盡力セシカ其成績良好ニシテ賃金ノ如キモ貳拾錢以上參拾五錢以下ヲ得ルニ至レリ左レハ家族中生計ニ餘裕ヲ生シ毎月貯金ヲ爲ス者アリキ救護團ハ是ノ成績ニ徵シ大ニ事業ヲ擴張シテ戰病死者ノ貧困家族並廢兵ヲシテ之ニ從事セシメ生活ノ維持ヲ計ラシムル爲メ帝國軍人援護會ニ素品買入ノ補足器具購入ノ補助ヲ請ヒ金七拾

圓ノ助力ヲ受ケ尙有志者ノ寄附ヲ得テ永久的事業トナサンコトニ努メツ、アリ

(二)足羽郡木田村軍人家族救護團ニ於テハ曾テ同村ニ抽穂藁製胴篋、手箒、藁靴ノ製作ヲ業トスルモノアルヲ以テ軍人家族ノ貧困者ヲシテ之ニ從事セシメシコトヲ企圖スルニ方リ忽チ五十名ノ就業者アルニ至レリ救護團ノ役員ハ日々其勤怠ヲ監督シ製作品ヲ品評シ販路ヲ紹介シ努メテ競争心ヲ奮起セシメタリシニ一意出精夜業ヲ爲ス者アリテ其一日ノ賃金ハ平均貳拾錢以上貳拾五錢以下ヲ得ルヲ以テ大ニ生計ヲ助ケ亦前途ノ望少カラサルヲ以テ益々擴張ヲ計リ同時ニ帝國軍人援護會ニ請ヒテ原料買入費ノ内ヘ金四拾圓ノ助力ヲ受ケ永久的事業トナシ軍人家族ノ外撥兵ヲモ之ニ由リテ生計ノ扶助ヲナスノ計畫ヲ採リツツアリ

(ホ)足羽郡下宇坂村軍人家族救護團ニ於テハ同村小和清水切石組合ト協議シ軍人家族ニシテ勞力ニ耐ヘ得ヘキ十五歳以上五十歳未滿ノ男子ニ切石職ヲ傳習シ女子ニ切石運搬ヲ爲サシメ以テ生計ヲ立テシメシコトヲ企圖シ男子十五名斯業ニ勵精シ女子數名モ亦喜ンテ運搬ニ從事セリ然レトモ其得ル所ノ賃金ハ傳習ノ日尙淺キニ依リ極メテ僅少ニシテ器具等ノ損料ヲ引去ルトキハ男子一日ノ賃金ハ拾錢内外ナルニ拘ハラス尙能ク之ニ耐ヘ而カモ就業ノ希望者アルヲ見ルハ如何ニ家族ノ生活ニ窮シ居ルヤヲ察知スルニ足ル故ニ其發奮勵精ノ至情ニ感激シ救護團ニ於テモ益々力ヲ盡シテ男子ニハ一人一日金拾錢ヲ女子ニハ荷車借入賃トシテ一基ニ付金五錢ヲ補助シ而シテ帝國軍人援護會ニ請ヒテ器具購入費等ノ資金七拾圓ノ助力ヲ受ケ以テ獎勵シタルニ依リ就業者ハ愈々勉勵日々通勤ヲ怠ラス成績佳良ナルカ故ニ將來ハ必ス永久的事業ト爲スニ難カラサルヘシ

二勞力、土地、肥料等ノ供給ニ依ル保護施設

軍人家族保護團ハ縣下各郡市町村内ニ設ケアリテ直接ニ適實ナル保護ヲ加フルコトトナシ以テ農業者等應召ノ爲メ勞力ニ不足ヲ告ケ家業ヲ持續スルコト能ハサルモノニハ勞力又ハ肥料等ヲ給シテ之ヲ獎勵シタルヲ以テ其効果生計ニ窮スルモノ少ナクシテ下士卒家族救助令及福井縣尙武會等ノ救助ヲ仰キタル者ハ老幼疾病者ノミニテ比較的小數ナラシメ而シテ縣下數万人ノ應召者アリタルニ由リ勞力供給ノ缺乏ニ懸念セシニ拘ハラス生産力等ハ却テ平年以上ニ上レリ茲ニ保護團ニ於テ扶助シタル金品勞力等ヲ計上スレハ總計金九萬六千九拾六圓四拾參錢六厘ノ巨額ニ達ス之レカ施設ニ就キ其一二ノ實例ヲ舉クレハ坂井郡大安寺村ノ村民ハ概ネ抄紙業ヲ營ム者ナルヲ以テ軍人家族中ニモ相當ノ紙漉職工アリ然レトモ貧困ニシテ製紙ノ原料ヲ求ムルコトニ困難シ拱手徒食ノ外ナキノ實況アルニ依リ有志者ヨリ原料ノ紙屑等ヲ給シ生業ヲ爲サシメタリ即チ其給與セシ原料ハ約二百貫目ナルモ貧窮家族八戸人員三十一人ハ能ク之レニ依リテ生計ヲ支ヘ殆ント二ケ年間ノ久シキ他ノ救助ヲ受ケタルハ僅ニ金七拾六圓勞力二十人ニ止マレリ又足羽郡東安居村大字菅谷及境ハ古來有

名ナル水害地ニシテ平年五分損耗位ヲ以テ良好ノ收穫ト爲セシカ村長及重立タル者相謀リ工費金貳千九百九圓五錢ヲ投シテ軍人家族及他ノ壯年者等ヲ使役シテ耕地整理ヲ施營シ生計ノ資ニ充テシメタリ

三 勞力紹介及雇傭ニ依ル援護

時局中ニ在リテモ羽二重ノ景況順調ナリシヲ以テ市町村長ハ當業者ニ交渉シ女子ハ職工ニ男子ハ下働キノ使用ニ若クハ各種ノ日雇ニ紹介シテ是等ノ稼業ニ出精シ得ルノ途ヲ扶掖センコトヲ計リ之カ施設ハ殆ント縣下ニ洽及シ又坂井郡ニ在リテハ九頭龍川改修工事中ニアルヲ以テ其沿岸部落ノ軍人家族ヲ該人夫ニ充用セラレンコトヲ交渉シ遂ニ強壯者ハ使役セララルコトヲ得タルヲ以テ其給料ニ因リテ生計ヲ立テ他ノ救助等ヲ要セサルニ至リタル者不少其他日雇等ハ努メテ軍人家族ヲ使用スルコトモ能ク一般ニ行ハレタリ

○時局ト援護資金

一 援護資金ノ募集並醸出ニ關スル特殊ノ事實

(イ) 援護資金ハ多額ノ支出ヲ要スルヲ以テ之レカ支途ハ特別寄附ノ醸集ニ俟タサルヲ得サリキ左レハ福井縣尙武會ニ在リテハ第一回募集トシテ救護費金壹萬貳千圓ヲ各郡市ニ配當シ寄附ヲ求メタル所開戦ニ方リ士氣勃興シ公憤ノ熱情熾盛ナリシニ因リ良好ノ成績ヲ奏シ直ニ募集ヲ了シ救護ヲ實施シタリ然ルニ戦局ノ大勢ニ伴ヒ應召軍人ノ數愈々多キヲ加フルト共ニ家族生活上ノ救護ヲ要スルモノ多々倍々其ノ數ヲ増加シタルト其他ノ援護事業等ノ發展ヲ計リ之レカ經營ノ爲メニ資金ノ缺乏ヲ來シタルニ依リ更ニ第二回募集トシテ金壹萬參千八百拾六圓八拾錢ヲ第一回ト同シク各郡市ニ配當シ寄附ノ募集ニ着手セシカ時恰モ國庫債券ノ應募或ハ非常特別稅ノ納付其他戰役ニ關シ奉公的義務費ノ多端ナル折柄ニシテ容易ニ醸集ノ結了ヲ見ルニ至ラス爲ニ事業ノ伸張ニ一大影響ヲ及ホサントスルヲ以テ局ニ在ル者ハ苦心慘憺日夜必死奔走ヲ爲シ勸誘ニ盡瘁シ遂ニ漸ク募集ノ目的ヲ達シ戰後終局迄軍人家族ヲ救護シ能ク生計ヲ支持セシメ以テ後顧ノ憂ナカラシムルコトヲ得犒軍慰藉ノ事業ヲ遂行シタリ

(ロ) 保護團ノ施設ニ付テハ其救護資金ノ支途物品ノ救與勞力ノ補助等モ其字其區隣佑ノ情誼ニ訴ヘ寄附ニ依ラサルヘカラサルヲ以テ同團委員等ハ自ラ各戸ニ就キ必要ニ應シテ醸集シタリシカ日常眼前ニ目撃セルトコロノ軍人家族ノ貧困ナル狀態及人少ノ爲メ生業上ニ不自由ヲ凌クモノ等ニ同情ヲ寄セ之カ救護慰安ト獎勵トヲ要スルコトヲ一般ニ認知シ比較的容易ニ募集上ノ良果ヲ得援護ノ目的ヲ達シタリ而シテ其救護金品勞力等ヲ計査スルトキハ其額殆ント全縣下戸數十有一萬餘ニ對シ一戸平均約金壹圓ノ多額ニ上レリ然レトモ各字各區毎ニ保護團ヲ設置シタルニ依リ其團員貧富ノ

程度一定ナラサルヲ以テ寒村僻地ニ在ル軍人家族ニ對シテハ或ハ保護團ノ力能ク救護慰安ノ十分ニ及ハサルモノアリ
是等ニ對シテハ福井縣尙武會ハ最モ救助ニ重キヲ置キ彼是相埃ヲ遺憾ナク生計ヲ立テシメ以テ後顧ノ憂ナカラシムル
コトヲ得タリ

○時局卜特殊ノ後援

一出征軍人醸出ニ係ル救護資金

出征軍人ヨリ篤志ヲ以テ特ニ救護金ヲ寄附シタルモノハ極メテ稀ニ見ル所ニシテ南條郡神山村廣瀨垣内末治ナル者ハ明治三十七年徵集ノ現役兵ニシテ出征中戰地ニ於テ日給ヲ貯蓄シ同村軍人家族救護費中へ金拾圓ヲ寄贈シ又大飯郡本鄉村本郷宵益道ナル者ハ豫備一等計手トシテ出征中戰地ヨリ同村軍人家族救護費中へ金拾圓ヲ二回ニ寄贈セリ蓋シ是等ノ篤志者ハ身自ラ戰役ニ服シテ缺乏ヲ凌キ自己ヲ持スルノ困難ナルヲ顧ミス却テ軍人家族ノ救護ニ心ヲ寄スルノ熱誠ナル實ニ感賞スルニ餘アリト云フヘシ

○時局卜殖産ノ振興

戰時ニ方リテ經營スヘキ事業多岐ナリト雖モ要スルニ産業ヲ振興シテ富力ヲ培養スルヨリ急且切ナルハナシ是ヲ以テ戰時中特ニ産業督勵委員部ヲ設置シ其督勵スヘキ事項及實施ノ方法等ヲ定メ而シテ其職員ノ一半ハ民間ニ名望者アル者ニ之ヲ囑託シ其他ハ官公吏中ヨリ任命セリ是レ主トシテ官民合同ノ力ニ賴リテ産業ノ發展ヲ獎勵シ以テ良好ノ成績ヲ舉ケンコトヲ希圖スルニ出テタルモノニシテ爾來此特殊ナル機關ノ活動ハ系統的ニ縣郡市町村ヲ一貫シ互ニ相呼應シテ産業ノ督勵ニ勗メ縣民亦克ク其旨趣ヲ體シテ協同經營シ效果ノ見ルヘキモノ少カラス其施設ノ概要ハ左ノ如シ

一普通農事ノ改良ト共同經營ノ事業

(イ)米麥種子澆水撰 良種ノ撰擇ハ品質ノ善良ト收穫ノ多量トヲ期スル所以ニシテ農事改良上最モ卑近ニシテ且ツ最モ實行シ易キモノナルヲ以テ各町村大字又ハ小字毎ニ共同施設ノ方ニ依リテ米麥種子澆水撰ノ厲行ヲ獎勵セシカ舊慣ヲ墨守スル農民中往々之ヲ厭ヒ依然澆水撰種ヲ行ハスシテ夜間密ニ種池ニ浸漬スルモノナキニアラサリシモ指導獎勵ノ結果其効益アルヲ知ルニ及ヒテ之ヲ實行スルモノ多キヲ加ヘ明治三十八年ニ於テハ米種子一萬九千三百三十二石ノ内實行シタルモノ一萬五千四百五十四石即チ八割八厘弱ニ當レリ又麥種子總量五千九百九石餘ノ内實行シタルモノ三千六百六十五石餘即チ六割二分強ノ成績ヲ舉クルニ至レリ既ニ平和克復後明治三十九年三月ヲ以テ産業督勵委員部亦解散

セリト雖モ此種改良事業ハ總テ其方針ヲ踏襲シテ益々之カ獎勵ニカマルノミナラス農民モ亦新ニ年中行事ノ一トシテ毎年之ヲ實行スルノ習慣ヲ養成スルニ至レリ

(ロ)短冊形苗代ノ普及 短冊形苗代ハ播種ヲ均一ニシテ稻ノ生育ヲ整正ナラシムルノミナラス諸般ノ管理ニ便利ナル等其効益尠少ナラサルニ依リ益々之カ普及ヲ獎勵シ且同時ニ播種數量ノ節減ヲ注意セリ是レ從來縣下一般厚播ニ失スルノ弊アリシヲ以テ前項ノ叙述ノ摺水撰種ヲ行ヒタル良種子ヲ薄播トスルトキハ縣下ヲ遍シテ約九千石ノ種穀ヲ節約スルコトヲ得ヘク農業經濟上至大ノ關係アルヲ以テナリ而シテ苗代期節ニハ委員ヲ各地ニ派遣シテ其實況ヲ巡視セシメ不適當ノモノハ之ヲ踏切ラシムル等實行上遺算ナキヲ期セリ又足羽郡及南條郡ニ於テハ郡事業トシテ苗代品評會ヲ開キ其優劣ヲ審査シテ賞品ヲ授與シタルカ如キハ獎勵上最モ其効驗ヲ認メシ所ナリ今明治三十八年ニ於ケル成績ヲ舉クレハ苗代總反別千貳百八拾壹町八反歩ノ内短冊形ヲ實行シタル反別千貳百貳拾七町六反歩ニシテ即チ約九割六歩ニ當レリ又明治三十七年以降共同苗代ノ設置ヲ獎勵シ更ニ昨三十八年末ニ於テ之ニ關スル縣令ヲ發布シ翌年ヨリ實施スルコトトセリ從來此種ノ共同經營ニ慣レサル農民ハ一時甚タ之ヲ喜ハサルノ狀アリシモ漸次共同ノ利益ヲ悟リテ之ヲ設置(集合的ノモ)スルモノヲ増加シ明治三十八年ニハ其箇所千七百一箇所ニ達シ之ヲ前年ニ比スレハ千二百三十二箇所ヲ増加シ本年ハ特別ノ事情アルモノヲ除クノ外殆ント共同又ハ集合苗代ヲ設置セサルモノナキニ至レリ

(ニ)麥黑穗豫防 麥黑穗拔モ亦督勵事項ノ一ニシテ專ラ其作人ヲシテ之ヲ厲行セシメタル外特ニ小學校兒童ニ稜取ラシメタルモノ尠シトセス現ニ今立郡河和田尋常高等小學校ハ毎日兒童ヲ監督指揮シテ之ヲ實行セシメシニ其拔取リタル穗數八萬八千餘ニ達シタルカ如キ又大野郡富田村ニ於テハ各村立小學校兒童ヲシテ日ヲ期シテ一齊ニ拔取ヲ行ハシメ村費ヲ以テ百穗ニ付壹錢宛ニ之ヲ買取セシニ實ニ六十三萬ノ多キニ及ヒ而シテ兒童ノ取得シタル金員ハ學校長之ヲ監督シテ渾テ郵便貯金ト爲サシメタルカ如キハ較著ナルモノニシテ共ニ美譚タルヲ失ハサルヘシ而シテ明治三十八年黑穗拔ヲ實行シタル總反別ハ四千六百參拾參町餘歩ニシテ其割合ハ五割八歩強ニ當レリ之ヲ前年ニ比スレハ二割七分強ヲ増加シタリ

(三)稚蠶共同飼育 蠶業ハ農家ニ重要ナル副業ニシテ之カ改良發達ヲ圖ルハ極メテ緊要ノ事ニ屬ス然シテ育蠶上最モ至難ナル稚蠶飼育ノ巧拙ハ管ニ收繭ノ多少ニ關係スルノミナラス延テ品質ノ良否ニ影響スルコト至大ナルモノアルヲ以テ稚蠶ノ共同飼育ヲ勸奨シ殊ニ明治三十九年度ニ於テ戰後經營事業ノ下ニ縣費ヨリ補助シテ之ヲ獎勵スルノ企畫ヲ爲シ縣會ノ協賛ヲ經豫算金千參百貳拾圓ヲ以テ二十八箇所ヲ指定シ一箇所平均約四拾圓最多五拾五圓 最少參拾圓ヲ補助セシニ其成績ハ頗ル佳良ニシテ斯業獎勵上裨益スル所尠少ナラサルヲ認メタリ即チ補助セシ箇所二十八、共同ノ者百七十一、掃立

數量三貫七百六十八匁、總收籾量千十三石六斗七升三合此對量一匁收籾量ハ平均二斗六升九合ナリ

(ホ)耕地整理 農事ノ根本的改良ノ基礎タル耕地整理ノ普及ニ就テハ夙ニ勸奨指導ヲ怠ラス或ハ其方法效果ヲ印刷シテ之ヲ配付シ或ハ講話會ヲ開催スル等毎ニ其普及ニ努ムル所アリ縣農會ニ於テモ亦技術員ヲ遣キ專ラ測量設計ニ從事セシメ彼此相呼應シテ實行ヲ促シタリ左レハ明治三十八年末ニ於テ既ニ發起認可ヲ經タル總面積六百五拾四町步ニ達シ而シテ其中中ノ九ハ總テ縣農會ノ設計ニ係ルモノニシテ整理ノ成績亦見ル可キモノ尠シトセス就中坂井郡木部村折戸ハ九頭龍川改修ノ爲メ該部落ヲ舉ケテ他ニ移轉セサルヲ得サルヲ機トシ新ニ農村ヲ經營スルト同時ニ耕地整理ヲ計畫シ時局中ニ於テ全ク其ノ功ヲ竣リ今十一團トナレル居村ヲ中心トシテ其周圍ノ耕地參拾六町步ヲ整理セシカ如キハ千古未曾有ノ戰役ニ在リテ實ニ好箇ノ紀念事業タルヘキモノトス又吉田郡淨法寺枋原ノ如キハ耕地ノ大半比年水害ノ厄ニ罹リ荒蕪ニ屬スルモノ許多ナルヲ慨シ村民島田靜省等熱心首唱シテ耕地整理ノ實行ニ力メ村民中之ニ反對シテ屢々妨害ヲ試ムルモノアリシニ拘ハラズ百方說示シテ遂ニ六町步ノ整理ヲ成功セシカ如キハ實ニ苦心慘憺ノ跡想察スルニ足ルモノアリ又縣下模範村農會ノ名アル敦賀郡松原村農會ニ於テハ村是ノ定ムル所ニ從ヒ耕地整理ノ普及ヲ謀リ農會ノ經費ヲ以テ其實測ニ着手シ既ニ設計ヲ了ヘタルモノ約二十九町步ニ及ヒ尙益々斯業ヲ擴張センコトヲ期圖シツ、アリ其他ノ町村ニ在リテモ陸續耕地整理ヲ企畫スルニ至リ現ニ縣農會ニ對シ測量設計ヲ要請セルモノ約千八百町步ノ多キニ達セリ思フニ斯ノ如キ良好ナル趨勢ヲ見ルニ至リタルハ縣及縣農會ニ於テ多大ノ便宜ヲ與フルニ由ルヘシト雖モ抑モ亦大戰役ノ動機大ニ與リテ力アリト謂ハサルヘカラス今明治三十九年十二月末調査ニ係ル事業ノ一斑ヲ舉クレハ左ノ如シ

郡別	箇所	總面積	同上ノ内田畑反別	費用
足羽	四	町步 一一五・七二二	町步 七六・三六一三 二二・九四〇四	四、四 一四八・六〇・九〇〇
吉田	四	九八・七九二	四七・六〇五 三五・四五〇八	二六・七五・七八二
坂井	八	三三六・八八三	二〇一・四四七 九二・九五一七	五三、四一、二、七一九
今立	一	一一二・七二二	一〇七・九〇五 四・八一七	七、三、七、二、九〇

丹生	二	一九六三〇五	畑田	九二〇二九	一〇六七八二七
敦賀	二	一五三八〇六	畑田	三五二二三五 六・四三〇二 四七〇一	六三八二二九
合計	二二	七二八六二二九	畑田	四三五・三九二〇 一八八・七一九	一〇七〇三三・二〇七

以上掲クル所ノ外或ハ堆肥及綠肥ノ普及ノ如キ或ハ二毛作ノ力行ノ如キ或ハ稻苗ノ正條植ノ如キ時局中獎勵ノ結果漸次好良ノ成績ヲ収メツ、アルモノ亦尠シトセス

(ホ)米穀改善 米穀ノ改善ニ就テハ諭告ヲ發シテ屢々當業者ニ警告ヲ加ヘタルコト少カラス且製米改良組合準則ヲ定メテ以テ之ヲ勸奨シ縣下主要ノ地ニハ曩年既ニ米商組合ヲ設立シテ輸出米ノ檢査ヲ實行セシカ時局ニ際シ産業督勵委員部ヲ設置シテ大ニ産業ノ發展ヲ督勵スルヲ好機トシ特ニ各米商組合ヲ勸諭シテ其聯合會ヲ組織セシメ同會ノ事業トシテ輸出米檢査ヲ厲行シ相當ノ成績ヲ舉ケツ、アリト雖モ尙一步ヲ進メテ根本的ニ米質ノ改良ヲ期圖スルノ必要アルヲ認メ明治三十八年十二月縣令ヲ以テ産米取締規則ヲ定メ乾燥、調製、容量及俵裝等ノ方法ヲ設ケ之ニ抵觸スル産米ノ賣買、授受ヲ強制スル爲メ罰則ヲ加ヘテ之ヲ制裁スルコトトシ明治三十九年以降ノ産米ニ之ヲ施行セシメタリ今ヤ各郡ニ於テハ或ハ審査機關ヲ町村ニ設ケ苟モ規則ニ違犯スルモノナカラントラ圖リ或ハ小作人獎勵ノ方法ヲ設ケテ地主トノ衝突ヲ緩和シ以テ本則ヲ圓滑ニ實施センコトヲ期スル等着々施設ニ努メツ、アルヲ以テ本縣産米改良上至大ノ効果ヲ收ムヘキハ敢テ疑ヲ容レサル所ナリ其他家禽ノ飼養モ亦副業トシテ簡易ニ行ハレ且ツ有利ノ事業ナルヲ以テ夙ニ奨誘スル所アリ特ニ時局ニ際シテ一層斯業ノ振興ヲ勸奨シ一面ニ於テハ小學校兒童ヲシテ養鶏ヲ爲サシメ之ニ頼リテ其ノ好愛心ヲ涵養シ以テ養鶏事業ノ發達ニ資益セシメントシ郡村ノ小學校長ヲシテ成ルヘク之カ實行ニ努力セシメシカ今立郡北日野村立發育尋常小學校同郡味真野村立清雅尋常小學校丹生郡朝日村立朝日^{尋常}小學校及敦賀郡松原村立松原^{尋常}小學校ニ於テハ既ニ之ヲ實行シテ其成績未タ見ルニ足ルモノナシト雖モ思フニ養鶏ノ事業タル最モ兒童ノ性狀ニ適シ且勤勉貯蓄ノ一方便トナルヲ以テ一層之カ普及ヲ奨誘セサルヘカラサルナリ

○時局ト勤儉ノ獎勵

一 勤勞ノ督勵貯蓄ノ獎勵ニ關スル各種ノ方法及其實行ニ關スル一般ノ概況並其効果

(イ) 勤儉貯蓄ノ獎勵 近年奢侈ノ風一般ニ增長シ人心日ニ浮華ニ流ルルヲ以テ夙ニ勤儉貯蓄ヲ獎勵スルノ必要ヲ認メ機ニ觸レ時ニ應シ之カ獎勵ヲ怠ラサリシモ好成績ヲ舉クルニ至ラサリシカ時局ニ方リ左ノ勤儉貯蓄組合準則ヲ發布シ同時ニ組合規約案ヲ示シテ以テ組合ノ設置ヲ獎勵シタリ然ルニ商業家ニアリテハ勤儉貯蓄ノ普及ハ一般商況ノ不振ヲ來スモノナリト誤解シ其他ノ者ニ在リテハ自己ノ貯蓄ノ多寡ヲ他人ニ知ラルルヲ厭フカ爲メ共同的貯蓄ヲ欲セサル傾アリテ未タ多大ノ好成績ヲ見ルニ至ラスト雖モ戰時中該準則ニ依リ組合ヲ設置シ實踐スルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

勤儉貯蓄組合

郡名	組合設置數	組合人員	貯蓄金額
足羽	五	一五〇人	二四三・〇九〇 円
吉田	八	三二四	八一六・七二〇
坂井	七	二六六	一、七二四・〇一〇
大野	九	二四九	三、六一・三三六
丹生	六〇	一、二一九	八一三・一五八
敦賀	二	九七	二、四四・三三〇
三方	一三	六八八	四、二六・四八一
遠敷	三三	二、五一四	四、四一・〇四九 円
合計	一三六	五、四九七	九〇、三九・四〇〇 円

勤儉貯蓄組合準則

明治三十七年二月
福井縣令第九號

第一條 市町村住民ハ便宜區域ヲ定メ本則ニ依リ勤儉貯蓄組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 組合ヲ設ルニハ規約ヲ作ルコトヲ要ス

組合ノ規約ニハ左ノ事項ヲ記載シ各組合員之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 目的

二 名稱

三 地區及組織

四 事務擔當者ノ選任及職務ニ關スル規定

五 勤儉貯蓄ノ方法

六 貯蓄金管理ノ方法

七 違約者處分ニ關スル規定

八 右ノ外必要ノ事項

第三條 組合ノ規約ハ郡市長ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 組合ノ規約ハ總組合員四分ノ三以上ノ同意アルトキニ限り之ヲ變更スルコトヲ得

規約ノ變更ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第五條 組合ハ毎年六月、七月ノ二回ニ組合員ノ貯蓄金一覽表ヲ作り郡市長ニ報告スヘシ

第六條 組合ニハ一人又ハ數人ノ事務擔當者ヲ置クコトヲ要ス

第七條 組合ハ事務擔當者ノ氏名住所ヲ郡市長ニ届出ツヘシ

郡市長ハ組合ノ事務擔當者ヲ不適當ト認メタルトキハ改選ヲ命シ又必要アルトキ自ラ仮事務擔當者ヲ選任スルコトヲ得

第八條 郡市長ハ何時ニテモ組合ノ事務及貯蓄ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第九條 組合ヲ解クニハ總組合員四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ郡市長ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 組合ヲ解キタルトキハ事務擔當者清算ノ任ニ當ルヘシ

附 則

第十一條 本則ニ依リ郡長ニ差出ス書面ハ總テ町村長ヲ經由スヘシ

勤儉貯蓄組規約案

第一條 本組合ハ明治三十七年福井縣令第九號勤儉貯蓄組合準則ニ依リ設置シ組合員各自家業ニ勉メ分限ヲ守リ勤勉ノ

利潤ト節儉ノ餘財トヲ貯蓄シテ自營獨立ト災害豫備ノ基本ヲ作ルヲ以テ目的トス

第二條 本組合ハ何郡市町村(何大字)内ニ居住スル戸主ヲ以テ組織シ何郡市町村(何大字)勤勉貯蓄組合ト稱ス

但シ戸主本市町村内ニ居住セサルトキハ家族中戸主ニ代リ一家ヲ支配スル者ハ組合員タルコトヲ得

第三條 組合員ハ左ノ方法ニ依リ積立金ヲナスノ義務アルモトス

一 常時積立 毎月金何程以上一定額

一 臨時積立 農作物又ハ漁獲物ノ時期若ハ山林生産物賣却ノ時期其他冠婚葬祭等ノ都度各自分限ニ應シタル金額

第四條 組合事務擔當者トシテ組長一名ヲ置キ尙組長ヲ補佐シ組合員ノ勤勉ヲ督勵シ分限ヲ守ラシメ其他集金等ノ事務

ヲ取扱フ爲メ世話役何名ヲ置ク

組長世話役ノ任期ハ何ヶ年トシ組合員ノ投票ヲ以テ選舉ス

組長世話役ハ無給トス

第五條 常時積立金ハ毎月、臨時積立金ハ其時々世話役ニ於テ便宜取纏メ組合員各自ノ名義ニテ郵便貯金又ハ何々貯蓄

銀行(何々)ニ預ケ入レ殖殖スルモノトス

第六條 郵便貯金通帳(積立金通帳)ハ組長之ヲ保管シ左ノ場合ノ外何等ノ事故アルモ引出コトヲ得ス但シ引出ノ場合ハ

必ス組長ノ承認アルヲ要ス

一 組合區域外ニ轉住シタルトキ

二 天災地變其他非常ノ災厄ニ遭遇シタルトキ

三 右ノ外組長及世話役ニ於テ萬不得已事情ト認メタルトキ但シ積立金ノ半額以上ヲ引出サントスルトキハ郡長(市

長)ノ認可ヲ受クルヲ要ス

組合員ハ何時ニテモ自己ノ郵便貯金通帳(積立金通帳)ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第七條 組合員ハ其家族ヲシテ本組合ノ主旨ヲ遵守セシメ準組合員トシテ積立金ヲナサシムルコトヲ得

第八條 組長ハ貯金臺帳ヲ備ヘ置キ集金ノ都度之ヲ記入シ毎年二回^{七月}貯金閱覽表ヲ作り町村長ヲ經テ郡長(市長)ニ報

告スヘシ

第九條 組長ハ毎年何月組合員總會ヲ開キ組合内勤儉貯蓄ノ成績ヲ報告スヘシ

第十條 組合員中家業ヲ勉勵シ能ク分限ヲ守リ他ノ模範トナル者アルトキハ組合員總會評議ヲ以テ之ヲ表彰スルコトヲ

ルヘシ

第十一條 本規約及申合條項ニ違背スルモノアルトキハ組長世話役協定ヲ以テ金何錢以上何圓以下ノ過怠金ヲ出サシムルモノトス

第十二條 組長世話役執務ニ要シタル筆墨紙等ノ費用ハ毎年何月積立金額ニ割合ヒ各組員ニ割賦シ出金セシムルモノトス

但シ前條ノ過怠金アルトキハ本文ノ費用ニ差繼クヘシ

第十三條 前各條ノ外組員ノ履行スヘキ事項ハ申合條項ニ依ル

申合條項

第一 組員ハ勤勉ヲ主トシ無爲ノ時間ヲ費スコトナク各自相應ノ家業及副業ヲ勵ムヘキ事

第二 組員ハ互ニ交誼ヲ厚クシ親睦ヲ旨トシ災厄アルトキハ相互ニ救助スヘキ事

第三 衣服其他ノ需用品ハ華美ヲ飾ラス専ラ實用ニ適スルモノヲ選ミ且ツ濫リニ會合飲酒スルコトヲ禁シ無益ノ費用ヲ省クヘキ事

第四 婚姻誕生葬儀祭禮等ノ場合ニ於テ身分不相應ノ舉アルヘカラサルハ勿論尙衣服飲食等ハ勉メテ節約シ儀式ニ必要ナルモノノミニ止ムヘキ事

第五 盆暮新年等舊慣ニ依ル物品ノ贈答其他種々ノ振舞等ハ勉メテ之ヲ節約スヘキ事

第六 軍人入退營ニ際シ送迎等ノ宴會及虚飾ニ屬スル贈物ハ廢止スルコト

第七 休業日ハ新年大祭祝日及氏神祭日ノ外左ノ期日トシ其他ハ特別ノ事情アル場合ノ外隨意休業セス業務ニ勉勵スヘキ事

何月 何日 何々
何月 何日 何々

第八 集會等ノトキハ公私ノ別ナク必ス指定ノ時刻ニ會同スヘキ事

第九 租稅其他公課ハ期限内ニ納付シ苟モ之ヲ怠ルヘカラサル事

第十 各自衛生ヲ重シ其法令又ハ規約アルモノハ能ク之ヲ遵守シ疾病ニ罹ラサル様注意スヘキ事

第十一 常ニ火ノ元ニ注意シ不慮ノ災難ヲ招カサル様互ニ警戒スヘキ事

第十二 遊惰ニシテ濫費ヲ爲スモノハ組長世話役ノ協議ヲ以テ便宜之ヲ戒メ本組合ノ主旨ヲ遵守セシムヘキ事

第十三 本組合區域内ニ新ニ居住ヲ定メタルモノアルトキハ本組合ノ主旨目的ヲ告知シ之カ加入ヲ勧誘スヘキ事

右規約及申合條項ヲ確守スル爲メ茲ニ記名調印スヘキ者也

明治 年 月 日

何郡市町村何大字

何 某印
何 某印

(ロ) 戦時貯金ノ概況

個人ノ貯金事業ハ頗ル好況ニシテ殊ニ明治三十七八年度ニ於テ國庫債券ニ應募ノ爲メ多額ノ拂戻ヲ爲シタルニ拘ハラ
ス左掲ノ如ク毎年度人員及貯蓄金額ノ増加ヲ示シ多大ノ成績ヲ見ルニ至レリ蓋シ縣民ノ一般カ時局ニ鑑ミテ克ク勤儉
ヲ躬行實踐シ蘊蓄ニ勗タルノ結果ヲ表明スルニ足ル

年度末現在	人員	金額	三十七年度ニ對シ三十八年度ノ比較		三十八年度ニ對シ三十七年度ノ比較	
			増	減	増	減
預入	度數	金額	124,738人	1,253人	25,364人	28,877人
拂戻	度數	金額	31,603人	4,674人	10,131人	28,877人
新規預入	人員	金額	46,747人	7,293人	10,955人	18,880人
年度末現在	人員	金額	292,219人	292,219人	112,477人	150,986人

(ハ) 小學兒童ノ貯金

小學校兒童ニ對シテモ從來勤儉思想養成ノ一端トシテ貯金ヲ獎メ之カ實踐ヲ爲サシメ特ニ千古未會有ノ一大戰後ニ方
リ此活事實ニ依リテ以テ敵愾心ヲ勃興セシメ士氣ヲ激勵シテ忠君愛國ノ至情ヲ涵養スルト共ニ層一層勤儉貯蓄ヲ鼓舞
シ其良習慣ノ陶冶ニ努メシメ著シク貯金額ヲ増加シタリ即チ明治三十八年度末現在ノ貯金額ハ左ノ如シ

郡市名	兒童數	貯金額	郡市名	兒童數	貯金額
足羽	1,555人	267.4円	敦賀	2,067人	1,056.5円
吉田	1,394人	185.8円	三方	978人	1,500.0円

坂野井 大立 今立 丹生 南條

四〇〇九	八八一五	一、九五七	五、三七八
二、九五八	四〇〇一	一、〇五九	二、〇九六
二、七三三	四、二四四	二、五八八	一、〇〇七
二、四九一	三、二二五	二、五八八	一、〇〇七
二、〇七〇	七、八五七	二、五八四	六、二七四
合計	福井	大飯	遠敷

(二)官公吏ノ戰時貯金

時局ニ當リ縣廳、郡市役所、警察署、町村役場、學校等ノ職員及吏員ニ諭スニ今ヤ曠古無前ノ大詔ヲ煥發セラレ戰局亦將ニ甚大甚激ナラントス此機ニ際シ職員吏員タル者須ク卒先シテ勤儉力行ノ美風ヲ實踐シ以テ範ヲ公衆ニ示スト共ニ應分ノ資財ヲ貯蓄シ軍資ノ萬一ニ供スルハ蓋シ報國盡忠ノ至情ヲ表スルノ一端タルヘキ旨ヲ以テシタルニ各官公署各廨ノ僚屬ハ齊シク左記規約ニ依リ毎月各自受クルトコロノ俸給額ノ百分ノ五以上旅費額百分ノ十以上ヲ戰時中蓄積シ國庫債券應募ノ準備ニ資スルコトト爲シ開戰ノ翌月ヨリ之ヲ厲行シテ終始怠ラザリシカ平和克復ノ翌月ヨリ旅費額ニ對スル分ハ之ヲ廢シ俸給額ニ對スル分ハ百分ノ二以上ニ改メ引續キ之カ實行ヲ爲シツ、アリ又市町村吏學校職員等ニ於テモ之ニ倣ヒ何レモ相當ノ貯金ヲ厲行セリ

福井縣官吏戰時特別貯金規約

- 第一項 本縣官吏吏員ハ軍資供用ノ目的ヲ以テ本規約ニ依リ貯金ヲナスヘキモノトス
- 第二項 貯金ハ郵便局ニ預入ル、モノトス
- 第三項 貯金ハ各自ノ俸給及ヒ旅費ヨリ其現金領收ノ都度之ヲ預ケ入ルモノトス其歩合ハ俸給ニアリテハ左記ノ通りトシ旅費ニ在リテハ支給ノ百分ノ十以上トス
 - 月俸拾圓迄ノ者 百分ノ五以上
 - 同 拾壹圓以上參拾圓未滿ノ者 百分ノ十以上
 - 同 參拾圓以上八拾圓未滿ノ者 百分ノ十五以上
 - 同 八拾圓以上ノ者 百分ノ二十以上
- 第四項 前項貯金ノ拂戻ハ轉免ヲ除クノ外左記ノ場合ニ限ル
 - 一 國庫債券又ハ軍事情債應募ノ場合
 - 一 軍資金獻納又ハ恤兵金品寄附寄贈ノ場合

第五項 本規約ニ定ムルモノ、外通帳ノ保管及貯金預ケ入レニ關スル手續ハ總テ明治三十四年六月十八日內訓第九十四號福井縣官吏貯金規約並ニ預入手續ニ據ル

附 則

第六項 本規約ハ明治三十七年三月一日ヨリ施行ス

○時局ト軍需品ノ供給

一軍需品供給ニ關スル斡旋盡力及供給者ノ狀況
 被服及衛生材料ノ供給事務ニ關シテハ明治三十七年九月以來之ニ從事シ其原料ノ如キハ請負人ヲシテ可及的縣下ノ製産品ヲ使用セシメ以テ管内綿織物ノ不振ヲ救済シ且ツ其職工及裁縫ハ主トシテ出征軍人家族ノ救護及貧民救恤ノ趣旨ヲ以テ此等ノ者ヲ使用セシメタリ而シテ各地ノ軍需品製造場ニ時々臨監シ製品ニ對シテハ悉ク嚴密ナル検査ヲ行ヒ夫々指定ノ場所ニ廻送セシメタリ其種類及數量等左ノ如シ

種 別	數 量	價 額	供 給 先	供 給 最 終 年 月 日	請 負 人
蒲 團	二五〇 <small>枚</small>	一四九七五〇	鯖江歩兵第三十六聯隊補充大隊	三十七年十月六日	高島彌平
同	二五〇	九三〇〇〇〇	敦賀歩兵第十九聯隊補充大隊	同	同
同	三〇〇〇	三三〇〇〇〇	金澤豫備病院	同	同
同	一〇〇〇 <small>組</small>	三三〇〇〇〇	鯖江歩兵第三十六聯隊補充大隊	同	同
同	五〇〇 <small>及</small>	一四一五〇〇〇	留守第九師團經理部	三十八年三月二十六日	同
夏繻袴袴下	五〇〇〇	三六六五・三〇〇	陸軍被服廠太坂支廠	同	同
ガ一ゼ	四〇〇〇	六八〇〇〇	陸軍衛生材料廠	同	同
同	五〇〇	八五〇〇〇	同	同	同
計		一九七五二八〇〇			

二 本縣農民ノ手ニ據リテ供給シタル軍用品

(イ) 藁靴 明治三十七年十月地方官會同ニ際シ軍用藁靴製造引受ニ關スル主務省ノ指示ニ基キ五萬足ヲ調達スルノ見込ヲ以テ各郡市長招集ニ際シテ其製造スヘキ員數ヲ配當シ又陸軍省ヨリ回付ノ標品ニ基キ各市町村ニ配付スヘキ見本品數百足ヲ敏速作製シテ之ヲ各郡市ニ送付シ而シテ製品検査手續ヲ定メテ粗製濫造ヲ防遏センコトヲ期シ縣廳及各郡市役所ノ主任官公吏ハ全力ヲ傾注シテ良好ノ成績ヲ收メンコトニ努メタリ然ルニ本品作製期間ハ僅ニ二十有一日ノ短時期ナルト殊ニ秋收ニ際シ農家ノ最モ多忙ナル季節ナリシト該品ノ編方等從來本縣地方ニ於テ製作スル雪中用藁靴ニ比シ其趣キヲ異ニシ原料ノ選擇ハ勿論技術的ノ素養アルコトヲ要セルカ爲メ製作ノ進捗意ノ如クナラス一時頗ル困難ヲ極メタリト雖モ其需供ノ急要ナル須臾モ躊躇スヘキニアラサルヲ以テ當局官公吏ノ勸奨誘掖ト各郡市ニ於ケル當業者ノ熱心トニ依リ卒先シテ傳習ヲ受クル者モ少カラス夜ヲ日ニ繼キテ其製造ニ從ヒ遂ニ同年十一月十七日ヲ以テ其第一回分ノ製品ヲ大阪被服支廠ニ納付スル事ヲ得爾後數次ニ之ヲ發送シ十二月八日ヲ以テ全部五萬足ヲ納付シ了レリ而シテ其成績ニ就キテハ多數農家ノ製作ニ係ルモノナルヲ以テ多少ノ優劣ナキニアラスト雖モ概シテ優良ニシテ大ニ該廠ノ賞讚スル所トナリ縣民ノ苦心徒爾ナラサリシヲ表スルコトヲ得タリ即チ各郡市ニ於ケル作製ノ成績ハ左ノ如シ

郡市名	製造數	代價	郡市名	製造數	代價
福井	五九六	三、五七、六〇〇	南條	三、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇
足羽	五、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	敦賀	一、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇
吉田	五、〇五〇	三、〇〇、〇〇〇	三方	三、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇
坂井	一〇、三九八	六、三三、八〇〇	三遠	四、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇
大野	五、〇〇二	三、〇〇〇、〇〇〇	大飯	五、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
今立	六、四三四	三、六〇〇、〇〇〇	合計	五、〇〇〇	三、〇七、一、五〇〇
丹生	六、〇〇〇	三、六〇〇、〇〇〇			

(ロ) 大麥 明治三十八年一月軍用大麥ヲ直接農民ヨリ購買スルノ方針ヲ以テ一萬石ヲ調達スヘキ旨農商務省ノ通牒ニ接シ直ニ各郡市長ニ移牒シテ之カ供給ニ盡力セシメタルモ本縣ニ於ケル明治三十八年大麥ノ産額ハ僅ニ七萬三千餘石ニ過キス之ヲ平年作ニ比スレハ五千六百餘石ヲ減少シ然カモ其ノ大半ハ農家ノ食料ニ供用スルモノナルノミナラス時期

既ニ米ノ收穫後ニシテ殘剩ハ之ヲ賣却セシモノアルヲ以テ到底豫定ノ數量ヲ調達スル能ハサルハ固ヨリ其所ナリト雖モ各農家ハ專軍用急需ノ場合ナルカ故ニ自ラ進ンテ偶々其食料トシテ貯藏セルモノヲモ差出シタルニ依リ漸ク千二百十四石餘ヲ購買スルコトヲ得同年二月六日及三月五日ノ二回ニ之ヲ大坂糧秣支廠へ送附シ茲ニ全ク其終了ヲ告ケタリ而シテ調達ノ大麥ハ豫メ一定ノ場所ニ集積シ鑑定人ヲシテ嚴重ニ之ヲ鑑定セシメ且縣及各郡市ノ主任官公吏モ亦其臨檢ニ努メタルカ爲メ本縣調達ノ大麥ハ悉ク採納セラル、ニ至レリ其數量等左ノ如シ

郡名	俵	石		代價
		數	數	
足羽	一〇、〇〇〇	五〇〇	三九、五〇〇	四、〇〇〇
吉田	四八八	二五、八六〇	一、八七一、一九四	四、〇〇〇
坂井	一、〇八〇	五四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇
大野	六三六	五一、八〇〇	二、五二二、二〇〇	七、一〇〇
遠敷	一八	九、〇〇〇	一、六二五、四〇〇	一、〇三八、七三九
天飯	二七〇	二〇、〇〇〇		
計	二一、五〇一	一、三三四、八六〇		

(ハ)軍用水産物罐詰 本縣水産物中鯖、鰯、鰯ノ三種ヲ軍用罐詰トナシテ供給スルコトヲ指定セラレシヲ以テ縣下ノ當業者ヲ集メ合資ノ團體ヲ組織セシメ越前罐詰商會ナル名稱ヲ付シ本縣監督ノ下ニ之カ製造ヲ爲サシメタリ而シテ工場ハ丹生郡越廼村蒲生及國見村鮎川ノ二箇所ニ設置セシメ明治三十七年五月十五日ヨリ其事業ニ着手シ同年十月迄ニ製造送付セシ數量價格左ノ如シ

種類	六月		七月		八月		九月		十月		計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
鯖	二、〇〇〇	四、五〇〇	一、五〇〇	三、三七五	四、〇〇〇	八、九二〇	一、一五〇	三、三七五	一、五〇〇	三、三七五	五、六五〇	一、二一七、五
鰯												
鰯												
合計	二、〇〇〇	四、五〇〇	一、五〇〇	三、三七五	四、〇〇〇	八、九二〇	一、一五〇	三、三七五	一、五〇〇	三、三七五	五、六五〇	一、二一七、五

翌明治三十八年ニ於テハ尙製造場一箇所ヲ丹生郡四箇浦村宿ニ設ケ蒸氣機械ヲ据付ケ製罐ヲ迅速ニ爲スノ計畫ヲ爲シ同年四月一日ヨリ事業ニ着手シタリ同年中ニ送附セシ數量價格ハ左ノ如シ

種類	五 月		六 月		七 月		八 月		合 計	
	數量	價 額	數量	價 額	數量	價 額	數量	價 額	數量	價 額
鱈	八六二	一、七五八	三、三三八	六、七八九	一	一	四、一九〇	八、五四七	四、一九〇	八、五四七
鱈	三、三六〇	七、一七二	六、五四〇	一四、三三八	四三三	八八八	七二〇	一、五五五	九、八〇〇	二、一五六〇
鯖	一	一	一	一	二、四二七	五、三三〇	一	一	四二三	八八八
鯖	一	一	一	一	一	一	一	一	三、一三七	六、七七五
總計	四、一三三	八、九三〇	九、八六八	二二、一七七	二、八四〇	六、二〇八	七、二〇〇	一、五五五	一七、五五〇	三、七七五〇

○時局ト自治ノ整善

一 地方財政ノ緊縮及事業ノ中止繰延ノ狀況

戰時ニ於ケル國費ノ膨脹ニ鑑ミ地方財政ノ緊縮ヲ計ルハ緊要ノコトニ屬スルヲ以テ大ニ縣費緊縮ノ方針ヲ執ルト共ニ郡市長ヲ招集シテ郡市町村ノ事業又ハ經濟ニ關シ緩急ヲ稽查シ緊肅ノ措置ヲ執ルヘキ旨ヲ訓示シ戰時中此方針ヲ採リテ以テ厲行ニ努力シタリ即チ縣郡市町村ノ經費總額ニ於テ明治三十六年度ニ比シ明治三十七年度ハ金四拾七萬六千九百餘圓ヲ明治三十八年度ハ金四拾六萬千參百餘圓ヲ各減少シタリト雖モ幸ニ之カ爲メ一般行政上ニ支障ヲ與ヘス圓滑ニ維持シ經過スルコトヲ得タリ以上事實ノ梗概ヲ叙列スレハ左ノ如シ

(イ) 縣費ノ緊縮

明治三十七年度縣費豫算總額ハ明治三十六年通常縣會ニ於テ一旦金八拾九萬七千四百餘圓ニ議決セルモ之ヲ更正シ砂防工事ノ施行福井中學校大野分校ノ獨立ヲ延期シ諸般ノ建築工事及補助費ヲ廢止又ハ減額シ九頭龍川改修費負擔ノ納付ヲ猶豫セラレ其他一般經費ニ節減ヲ加ヘ金貳拾四萬七千四百餘圓ヲ減シ明治三十八年度ニ於テモ尙此方針ヲ持續シ極メテ緊急必要ナル支出ノミニ止メタルモ九頭龍川改修費負擔額拾萬圓ノ納付ヲ猶豫セラレサリシ爲メ明治三十七年度ニ比シ拾萬三千六百餘圓ヲ増シタリト雖モ之ヲ明治三十六年度ニ比スレハ拾四萬參千八百餘圓ヲ減セリ而シテ三十

七八兩年度ニ於テ支出上尙諸般ノ經費ニ節約ヲ加ヘシト多少事業ノ翌年度ニ繰越シタルモノアルトニ由リ其決算ノ成績ニ在リテハ明治三十六年度歳出總額ニ比シ明治三十七年度ハ金參拾壹萬六千八百餘圓明治三十八年度ハ金貳拾八萬七千五百餘圓ノ減少ヲ見ルニ至レリ

(ロ) 郡市町村費ノ緊縮

郡費モ亦ニ且通常郡會ニ於テ明治三十七年度豫算總額ヲ金五萬貳千參百餘圓ニ議決セシカ補助費ノ大部分ヲ削減シ且諸般ノ經費ヲ節約シテ金貳萬四千餘圓ニ更正シ半額以上ノ減殺ヲ加ヘ又市費及町村費ニ於テハ諸般ノ建築工事ヲ廢止シ又ハ中止セシメ其他ノ經費ニ削減ヲ加ヘタルヲ以テ明治三十七年度豫算總額ハ明治三十六年度ニ比シ金拾九萬參千貳百餘圓ヲ減少セリ而シテ明治三十八年度ニ於テモ同一ノ方針ニ依ラシメタルカ故ニ三十七八兩年度ノ決算額ハ三十六年度ニ比シ多大ノ減額ヲ見ルニ至レリ

二 公共財産ノ造成ニ關スル計畫實行ノ概況及整理

公共財産ノ造成ニ關シテハ從來其獎勵ヲ怠ラサル所ニシテ殊ニ時局ニ方リ戰役紀念トシテ或ハ經濟ノ整善ヲ圖ラシメンコトヲ企期シ以テ既定ノ方法ヲ實踐セシメ或ハ新ニ之カ施設ヲ勸奨シタリ即チ縣ニ於テハ縣立學校ニ基本財産ヲ造成シテ其範ヲ示シ郡ニ於テモ殖林若クハ蓄積金ノ方法ヲ以テ郡有財産ヲ造爲シ一面市町村ニ對シ銳意町村基本財産及小學校基本財産ノ造成ヲ督勵シタルヲ以テ其成績ノ見ルヘキモノアルニ至レリ是ニ於テ町村ノ基本財産ニ就キテハ之カ管理保管ノ監督ヲ嚴ニシ基本財産管理規程ノ準則ヲ示シ個人貸付ノ如キ危險ナル増殖方法ハ絶對ニ之ヲ廢止セシメ確實ナル銀行トイヘトモ仍相當ノ擔保ヲ徵スルニアラサレム預入セシメス有價證券ハ郵便局預ケトシ現金ハ專ラ郵便貯金若クハ大藏省預金トシテ保管セシムルコトヲ期シツツアリ今其造成計畫並實行ノ概況ヲ舉クレハ左ノ如シ

(イ) 縣立學校基本財産

師範學校、各中學校、高等女學校ニ於テハ明治三十六年度ヨリ向フ五十箇年間毎年度授業料、入學試驗手数料、學資償還金、生産及製作品、不用品賣却代金等ノ收入ヲ以テ其學校ノ基本財産ニ蓄積シ特別會計トシテ整理スルノ計畫ヲ立テタリ今明治三十八年度末ニ於ケル師範學校及福井大野武生小濱ノ中學校及福井高等女學校ノ蓄積金額ヲ舉クレハ總計金壹萬九千貳百圓八拾四錢六厘ナリ

(ロ) 郡基本財産及積立金

郡財政ノ基礎ヲ鞏固ニシ以テ郡ノ歲入ハ將來各町村ノ分賦ニ依ラス專ラ基本財産ノ收入ニ依リ其經費ヲ維持スルノ目的ヲ確立センコトヲ期スルコトトシ殖林事業ヲ起シ又ハ戶數ヲ目安トシテ一戶平均若干ヲ特別ニ分賦シ之ヲ蓄積スル

ノ計畫ヲ立テタルモノ若クハ歲計剩餘金等ヲ蓄積シテ積立金ヲ設置セルモノアリ是等ノ概況ヲ舉クレハ左ノ如シ

殖 林 事 業

三方郡ニ於テハ明治三十六年度ヨリ毎年度參町步宛五十箇年間繼續植樹ノ計畫ヲ立テ同年度ヨリ着手シ郡有山林拾貳町六反貳拾五歩ノ内既ニ五町八反五畝歩ニ檜杉四萬千六百八十本ヲ植栽シ之ニ支出セシ總費額ハ金四百拾參圓拾錢ナリ大飯郡ニ於テハ明治三十九年度ヨリ六ゲ年間ニ山地貳拾町步ヲ借入レ植樹スルノ計畫ヲ立テタリ同年度ノ植樹費豫算額金八百四拾圓九拾四錢ナリ

郡基本財産ノ蓄積

大野郡ニ於テハ明治三十六年度ヨリ向フ五十箇年間毎年度歲計剩餘金ノ外戶數一戸ニ付金五錢ノ割合ヲ以テ蓄積シ敦賀郡ニ於テモ亦同年度ヨリ向フ四十箇年間毎年度戶數一戸金參錢乃至六錢ノ割合ヲ以テ特別分賦ヲ爲シ今立郡ニ於テハ明治三十六年度ヨリ向フ三十箇年間歲計剩餘金ニシテ百圓ヲ超過シタル金額及雜收入ノ外毎年度金參百六拾圓乃至八百圓ヲ蓄積スルモノトシ其一半ハ直接國稅納額ヲ一半ハ縣稅賦課戶數ヲ標準トシテ特別分賦ヲ爲シ足羽郡ニ於テハ明治三十七年度ヨリ向フ五十箇年間歲計剩餘金及臨時ノ縣收入金ノ外毎年度一戸金壹錢以上五錢以下ノ割合ヲ以テ特別分賦シ之ヲ蓄積ス今明治三十八年度末現在額ヲ舉クレハ有價證券額面金高壹萬貳千四百九拾五圓、現金千八百六拾四圓總計金壹萬四千參百五拾九圓ナリ

郡 積 立 金

坂井郡ニ於テハ明治三十六年度ヨリ毎年度歲計剩餘金及臨時ノ收入金ヲ積立ツルノ規程ヲ設ケテ之ヲ實行シ遠敷郡ニ於テハ明治三十七年度ヨリ向フ四十箇年間毎年度豫算ヲ以テ積立金額ヲ定メ之ヲ蓄積セリ即チ明治三十八年度末現在額ハ有價證券額面金高九千六百圓現金百拾壹圓總計金九千七百拾壹圓ナリ

(ハ)市町村基本財産及市町村立小學校基本財産

市町村ニ於テ毎年度町村稅地價割戶別割ニ若干ノ増課ヲ爲シ或ハ歲計決算剩餘金雜收入(授業料ヲ除ク)國縣稅徵收ニ對スル交付金、戶籍手數料、諸手數料等ヲ併セテ之ヲ蓄積シ若クハ殖林經營ヲ爲スモノ亦尠ナカラス縣下一市百七十二箇町村中條例ヲ設定シテ蓄積ヲ爲スモノ明治三十七年二月迄ニ八十六箇町村ニシテ爾後二十二箇町村ヲ増加シ合計百八箇町村ニ及ヒ其他ノ町村ニ於テモ亦實踐的ノ規定ヲ定メ蓄積セルモノ六十有三箇町村アリ未タ全ク蓄積ヲ爲ササルモノハ僅ニ一市九箇町村ニ過キス今明治三十八年度末ニ於ケル現在ノ蓄積金額等ヲ舉クレハ町村基本財産造殖實踐町村百七十一、蓄積現金四萬貳千八百參拾八圓、諸公債證書價格金五萬六百圓、諸株券價格金四千九百九拾七圓、總計金九萬

八千四百參拾五圓ニシテ市町村立小學校基本財産造殖實踐額金貳萬八千四百貳拾八圓ナリ

明治四十年三月三十一日印刷

明治四十年五月二十五日發行

福井縣

金澤市高岡町九十番地

印刷者 澤田助太郎

金澤市高岡町九十番地

印刷所 明治印刷株式會社

電話二十九番

